

# プログラムA2 ミニマムリクワイアメント 保存系(歯内治療科、歯周病科)研修

	到達目標	研修内容	必要症例数	症例数(各科目安)		研修歯科医の指導体制	修了判定の評価基準			
				A2(歯内)	A2(歯周)					
	基本的診察・検査を実施し、解釈する	1. 診査 2. 治療計画の立案	3症例	5症例	3症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 各診療科の指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	目標達成の基準として、 <b>合計28症例以上</b> (目安:歯内41症例、歯周55症例)経験していることが必要。 各研修内容ごとに必要症例数を原則、達成していること。			
	エックス線撮影を実施し、得られた所見を判断する									
	齶蝕の診断、治療計画を立案する									
	得られた情報から診断し、一口腔単位の治療計画を作成する									
	基本的な修復処置、歯髄処置、 <b>根管治療処置</b> を実施し、解釈する。	1. 覆髄処置	2症例	10症例	2症例					
		2. 抜髄処置 根管拡大・根管形成終了までで1症例とする								
		3. 感染根管処置 根管拡大・根管形成終了までで1症例とする								
		4. レジン充填						4症例	6症例	4症例
		5. インレー修復								
	歯周疾患の診断、治療計画を立案する	1. 診査 2. 治療計画の立案	1症例	1症例	3症例					
	歯周疾患の基本的な治療を実践する	1. ブラッシング指導	1症例	1症例	5症例					
		2. スケーリング・SRP	1症例	1症例	10症例					
		3. メンテナンス・SPT	1症例	1症例	10症例					
	専門的治療を見学する(歯の漂白、歯周外科、マイクロスコープを用いた歯内治療等)	1. 歯の漂白	1症例	2症例	1症例					
		2. 外科的歯内療法								
		3. 歯周外科								
		4. <b>マイクロスコープを用いた歯内治療</b>			1症例					
歯科疾患予防のための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する	1. 口腔衛生指導・予防処置	3症例	3症例	5症例						
基本的な応急処置を実践する	1. 応急処置	1症例	1症例	1症例						
周術期口腔機能管理を実践する。	1. 周術期口腔ケア	3症例	3症例	4症例						
歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する	1. 全身状態の確認	2症例	2症例	2症例						
診療に関する記録や文書(診療録、処方箋、歯科技工指示書)を作成する	1. 診療に関する文書作成	1症例	1症例	1症例						
患者の医療情報について、必要に応じて主治医と診療情報を共有する	1. 他科との診療情報の共有	1症例	1症例	1症例						
各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する	1. 患者の年齢と全身状態を考慮した歯科診療の実施	1症例	1症例	1症例						
多職種によるチーム医療についてその目的、各職種の役割を理解し、連携を図る。	1. <b>多職種チーム(歯科医師、歯科衛生士、医師、看護師)に参加</b>	1症例	1症例	1症例						
	2. <b>歯科技工士と連携して技工指示</b>	1症例	1症例	1症例						
A1,A2,Bプログラム共通	医療安全対策を実践する	1. 患者安全に配慮した診療 2. 医療安全研修会に参加	全症例	2回以上						
	院内感染対策を実践する	1. 標準予防策の実施 2. 院内感染対策に関する研修会に出席	全症例	2回以上						
	地域包括ケアシステムについて理解し、歯科医療の役割を説明する。	1. 地域包括ケアシステムおよび地域歯科医療に関する講義に出席	1回以上							
	地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、地域歯科保健活動を理解する。	1. 地域歯科保健活動に関する講義に出席	1回以上							
	医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解する	1. 医療関連法規および制度に関する講義に出席	1回以上							
	適切な保険診療を実践する	1. 保険診療の実施	該当全症例							

# プログラムA2 ミニマムリクワイアメント

## 補綴系(咬合補綴科、義歯補綴科)研修

	到達目標	研修内容	必要症例数	研修歯科医の指導体制	修了判定の評価基準
			A2プログラム		
	基本的診察・検査を実践し、解釈する	1. 診査 2. 治療計画の立案	2症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を担当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。(患者担当型) 各診療科の指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、指導歯科医等の患者の症例を担当する。(症例担当型)	目標達成の基準として、合計21例以上経験していることが必要。 各研修内容ごとに必要症例数を原則、達成していること。
	エックス線撮影を実施し、得られた所見を判断する				
	齶蝕の診断、治療計画を立案する				
	得られた情報から診断し、一口腔単位の治療計画を作成する				
	クラウン・ブリッジの基本的な治療を実践する	1. クラウン・ブリッジ治療	2症例		
	可撤性義歯の基本的な治療を実践する	2. 可撤性義歯治療	2症例		
	基本的な技工操作を実践する	1. 技工	2症例		
	専門的治療を見学する(歯科インプラント、顎義歯等)	1. 歯科インプラント 2. 顎義歯治療	2症例		
	歯科疾患予防のための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する	1. 口腔衛生指導・予防処置	2症例		
	口腔機能低下に対する基本的治療・管理を実践する	1. 口腔機能検査 2. 口腔機能リハビリテーション	1症例		
	周術期口腔機能管理を実践する。	1. 周術期口腔ケア	1症例		
	歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する	1. 全身状態の確認	2症例		
	診療に関する記録や文書(診療録、処方箋、歯科技工指示書)を作成する	1. 診療に関する文書作成	1症例		
	患者の医療情報について、必要に応じて主治医と診療情報を共有する	1. 他科との診療情報の共有	1症例		
	各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する	1. 患者の年齢と全身状態を考慮した歯科診療の実施	1症例		
	多職種によるチーム医療についてその目的、各職種の役割を理解し、連携を図る。	1. 多職種チーム(歯科医師、歯科衛生士、医師、看護師)に参加 2. 歯科技工士と連携して技工指示	1症例 1症例		

A1,A2,Bプログラム 共通	医療安全対策を実践する	1. 患者安全に配慮した診療	全症例
		2. 医療安全研修会に参加	2回以上
	院内感染対策を実践する	1. 標準予防策の実施	全症例
		2. 院内感染対策に関する研修会に出席	2回以上
	地域包括ケアシステムについて理解し、歯科医療の役割を説明する。	1. 地域包括ケアシステムおよび地域歯科医療に関する講義に出席	1回以上
	地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、地域歯科保健活動を理解する。	1. 地域歯科保健活動に関する講義に出席	1回以上
	医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解する	1. 医療関連法規および制度に関する講義に出席	1回以上
適切な保険診療を実践する	1. 保険診療の実施	該当全症例	

# プログラムA2 ミニマムリクワイアメント

## 顎顔面口腔外科系(顎口腔外科、顔面口腔外科、歯科麻酔科)研修

	到達目標	研修内容	必要症例数	研修歯科医の指導体制	修了判定の評価基準
			A2プログラム		
	医療コミュニケーションを実践する	1. 医療面接 2. 診査・検査	10症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 各診療科の指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	目標達成の基準として、合計45例以上経験していることが必要。各研修内容ごとに必要症例数を原則、達成していること。
	適切で十分な医療情報を収集する				
	齲蝕の診断、治療計画を立案する				
	得られた情報から診断し、一口腔単位の治療計画を作成する				
	基本的な診察・検査を実施し、解釈する				
	患者および家族の自己決定を尊重する(インフォームドコンセントの構築)				
	得られた情報から診断し治療計画を立案する	1. 一口腔単位の治療計画の立案	1症例		
	口腔外科疾患の基本治療を実施する	1. 抜歯の実践、介助 2. 小手術の実践、介助	15症例		
	口腔外科小手術の基本術式を実践する				
	局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔を実施する	1. 精神鎮静法の実践、介助  2. 全身麻酔の実践、介助(外来・手術室)	12症例		
	歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する	1. 全身状態の確認	2症例		
	診療に関する記録や文書(診療録、処方箋、歯科技工指示書)を作成する	1. 診療に関する文書作成	1症例		
	患者の医療情報について、必要に応じて主治医と診療情報を共有する	1. 他科との診療情報の共有	1症例		
	各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する	1. 患者の年齢と全身状態を考慮した歯科診療の実施	1症例		
	多職種によるチーム医療についてその目的、各職種の役割を理解し、連携を図る。	1. 多職種チーム(歯科医師、歯科衛生士、医師、看護師)に参加	1症例		
		2. 歯科技工士と連携して技工指示	1症例		

A1,A2,Bプログラム 共通	医療安全対策を実践する	1. 患者安全に配慮した診療	全症例
		2. 医療安全研修会に参加	2回以上
	院内感染対策を実践する	1. 標準予防策の実施	全症例
		2. 院内感染対策に関する研修会に出席	2回以上
	地域包括ケアシステムについて理解し、歯科医療の役割を説明する。	1. 地域包括ケアシステムおよび地域歯科医療に関する講義に出席	1回以上
	地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、地域歯科保健活動を理解する。	1. 地域歯科保健活動に関する講義に出席	1回以上
医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解する	1. 医療関連法規および制度に関する講義に出席	1回以上	
適切な保険診療を実践する	1. 保険診療の実施	該当全症例	

## プログラムA2 ミニマムリクワイアメント 全身管理研修(口腔外科病棟)

	到達目標	研修内容	必要症例数	研修歯科医の 指導体制	修了判定の 評価基準
			A2プログラム		
	入院患者の検査および診察を行う（術前、術中、術後の全身状態を評価する）	1. 入院患者の全身状態の評価	1 症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。（患者配当型） 各診療科の指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型）	目標達成の基準として、合計2例以上（口腔外科病棟、高齢者歯科・全身管理歯科）経験していることが必要。 原則、各研修内容ごとに必要症例数を達成していること。
	入院患者の病棟処置および全身管理を行う	1. 入院患者の口腔機能管理及び全身状態の把握	1 症例		

## 全身管理研修(高齢者歯科・全身管理歯科)

	到達目標	研修内容	必要症例数	研修歯科医の 指導体制	修了判定の 評価基準
			A2プログラム		
	有病者・高齢者の検査および診察を行う	1. 医療面接・診査・検査	1 症例	各診療科の指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、指導歯科医等の患者の症例を配当する。（症例配当型）	目標達成の基準として、合計4例以上（口腔外科病棟、高齢者歯科・全身管理歯科）経験していることが必要。 原則、各研修内容ごとに必要症例数を達成していること。
	有病者・高齢者の歯科治療に必要な知識・技能を習得する	1. 患者への歯科治療上の問題点の説明	1 症例		
	歯科治療時の全身管理を実践する	1. 歯科治療時のモニター管理	1 症例		
	周術期患者の口腔状態の評価と口腔機能管理を実施する	1. 周術期口腔ケア	1 症例		

## プログラムA2ミニマムリクワイアメント

### 研修協力施設での研修

	到達目標	研修内容	必要症例数 A1プログラム	研修歯科医の 指導体制	修了判定の 評価基準
	摂食嚥下の診断、嚥下訓練を見学する	長尾病院のチーム医療への参加	1日間	医療スタッフが1日間、研修指導を行う。	目標達成の基準として、1日間、研修協力施設での研修経験していることが必要。
	リハビリテーション施設を見学する	長尾病院のチーム医療への参加	1日間		